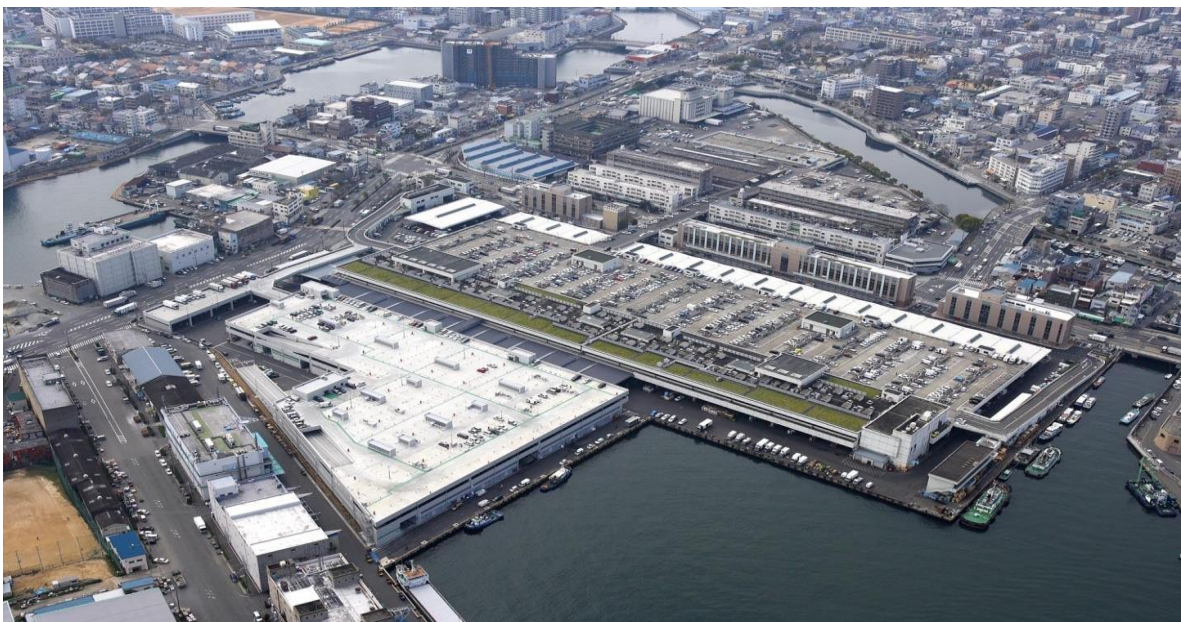


神戸市中央卸売市場本場 経営展望計画

～ スピードと実行力のある市場を目指して ～



目 次

1 策定の趣旨	
（1）目的	P. 1
（2）目標年次	P. 1
（3）策定までの経緯	P. 2
2 当市場の現状	
（1）神戸本場の概要	P. 4
（2）取扱数量、取扱金額の動向	P. 5
（3）集荷の状況	P. 11
（4）販売の状況	P. 16
（5）仲卸業者の動向	P. 22
（6）神戸本場に対する顧客の評価	P. 24
3 SWOT分析	P. 28
4 目指すべき将来像	
（1）位置づけ	P. 29
（2）役割	P. 30
（3）目指すべき将来像	P. 32
5 基本戦略	
（1）流通機能の強化	P. 33
（2）品質・衛生管理の強化	P. 38
（3）管理・運営体制の再構築	P. 39
（4）市民に開かれた市場づくり	P. 40
6 行動計画（アクションプラン）について	
（1）策定について	P. 42
（2）策定期間	P. 42
（3）策定方法	P. 42

1 策定の趣旨

(1) 目的

農林水産省は平成 22 年 10 月に「第 9 次卸売市場整備基本方針」を策定し、その中で「中央卸売市場においては、開設者及び市場関係業者が一体となって、卸売市場全体の経営戦略的な視点から、それぞれの卸売市場の位置付け、役割、機能強化の方向、将来の需要・供給予測を踏まえた市場施設の整備、コストも含めた市場運営のあり方等を明確にし、経営展望を策定するなど、卸売市場としての経営戦略を確立する」ことを示した。それと同時に、拠点的な中央卸売市場とその周辺市場による効率的な流通ネットワークの構築を目標とし、新たに「中央拠点市場」を位置付け、それぞれの役割に応じた整備を推進することを明確にした。

神戸市中央卸売市場本場も、水産物部は単独で、青果部は神戸市中央卸売市場東部市場との連携により、中央拠点市場に位置付けられた。

しかし、消費者ニーズの多様化や市場外流通の増大、市場間競争の激化などの流通環境の変化により、昭和 50 年には青果部・水産物部あわせて 41 万 t あった取扱量が平成 24 年には 19 万 t にまで減少し、場内業者の経営状況も厳しい状況である。

そこで、当市場を取り巻く環境の変化に的確に対応し、今後も生鮮食料品流通の拠点としてその機能を発揮していくため、当市場における経営展望計画を策定する。

(2) 目標年次

計画対象期間を 5 年間とする。

なお、今回策定する経営展望計画は、神戸本場の 10 年先を見通し、5 年後である平成 29 年度までに達成すべき目標を示すものとする。



(3) 策定までの経緯

平成 23 年 11 月に開催された「第 10 回 神戸市中央卸売市場業務運営協議会」にて経営展望策定のための専門部会を当市場に設置することが承認された。

これを受けて、平成 24 年 4 月に本場専門部会を設置し、策定体制を下記のとおりとして策定作業を行った。

1) 体制図

提供
有限会社食品市場新聞社

